

第17回真鶴町地域公共交通会議概要

日時：平成30年11月5日（月）9：30～10：15

場所：真鶴町国保診療所会議室

出席者：委員14名（欠席6名、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員、〇〇委員）

傍聴者：1名

1 開会

2 議題

(1) デマンド交通実証実験について

資料1 事務局説明。

小堤委員・・・乗合タクシーでやっていただきたいという意向でいいか。

事務局・・・まさに普通のタクシーとのすみ分けの中で、今回、乗合タクシーという形を考えていて、4人までの様々な方が同乗するというサービス。

小堤委員・・・例えば、真鶴駅から山ゾーンにお一人。それから港ゾーンにお一人というオーダーがあった場合には、それは1台ですか。

事務局・・・今のところは1ゾーン1台と分けているので、山ゾーンから予約があればそちらに1台。港ゾーンから予約があればそちらに1台という形を考えている。

小堤委員・・・効率的に山ゾーンで1人落とし、港ゾーンに落とすということはないのか。

事務局・・・既存バス路線との兼ね合いもあり、影響しないようゾーンを設定しているので、相互のゾーン間の移動はあくまでも不可としている。あくまでもゾーンあたりの予約があってそちらに1台。

小堤委員・・・ゾーン間の移動というか、真鶴町から1人は山ゾーン。1人は港ゾーンの場合には、1台1台か。

事務局・・・1台1台で入る。

小堤委員・・・乗合の場合について、複数乗車の時に割引にはならないのか。何人乗ろうと、最大4人なので1600円ということか。

事務局・・・おっしゃるとおり。他の市町でそういった、何名か乗れば割り引いて乗れるというような制度を行っている所もあるが、今回の実証実験は基本1人400円ということで、最高1600円というような利用料になる。

小堤委員・・・続けていくには、効率的な運行であるとか、それから複数の乗合というのがポイントになると思うので、今後、実証実験もしくは本格稼働の際には、乗合を増やすようなことを考えていただければと思う。

中村委員・・・行く時に予約し、そこの乗降ポイントまで行く。例えば帰る時に、タクシーが待っていても、予約し忘れた場合は、お断りということか。これはあくまで住民向けなので、観光客へのインフォメーションはしないということではよろしいか。

事務局・・・お見込みのとおり。あくまで予約制なので。

溝口委員・・・2月1日からの運行ということで、4月1日からの運行に関し、もう運行が始まった時には申請準備に入る必要があり、その変更部分をどこの段階でどう考え、それを町はどう考えているのか。

それから、駅を利用するというので、毎日同じ人たちで利用されて、もうそれで終わってしまうという可能性もある。それから、夏休み中のイベント時は駅にタクシーを待つ行列ができ、イベントで来られたお客さまに30分待ってもらうような状態になる中で、駅での乗降時の、一部の人がだけかこうやっている姿を見せていいのかという部分もあり、駅をここに入れるのはどうなのかなというのが、事業者側からの考え。

事務局・・・来年度の運行の継続について、現時点で大変申し訳ないがまだ白紙という状況。ただ、なるべく早く決めていただかないと、交通の継続は難しいところがあり、現在、来年度の予算の中で検討材料に入っており、早めに答えを出していきたいと考えている。

2点目の、真鶴駅のまちなかエリアに入れたということについては、本当であれば、やはり町内でそういった交通を使っていくのが一番だと思うので、今後の手続きの中で、入れるか入れないかをタクシー会社と調整し、それで事務局に預け願えればと考えている。

岡村会長・・・今の2点は、実はかなり重要な件だと思うので、他の委員の方からもご意見があればぜひお願いしたいと思うが、いかがか。

猪狩委員・・・乗降スポットに関しては、町民の方の利用ということで、ある一定期間利用されていればスポットっていうのは周知されていくと思うが、この新しい交通システムの乗降スポットについては、掲示されるのか。

事務局・・・実証実験の中で乗降ポイントに看板を設ける。

猪狩委員・・・例えばその中に、真鶴駅前構内に入ってくることは、イメージされているのか。

事務局・・・イメージしている。

猪狩委員・・・本来、契約しているタクシー事業者と打ち合わせしながらイメージしているかと思うが、乗降ポイントはどの辺に設置されるのか。

事務局・・・今のところは、真鶴駅のどこかまだ決まってはいない。今後バス・タクシー事業者と相談しながら決めていこうと考えている。

岡村会長・・・管理者は真鶴駅か。駅前のバスであるので、管理者と調整をお願いする。

猪狩委員・・・まちなかエリアからゾーンに向かうと思うが、例えば役場前とか小田原百貨店前とか、それは1便当たり最大2台で運行するというので、重複し台数オーバーになってしまった場合、ハンドリングっていうのはどなたがされるのか。

事務局・・・予約制としてもうその時点で何名乗られるかは確認をしているので、まずオーバーすることはあり得ない。その場で乗りたいと言われても予約がないのでお断りするような形になる。

猪狩委員・・・その窓口は、タクシー事業者になる。

事務局・・・こちらについても連絡先はそちらの方をお願いします。

岡村会長・・・先ほど事務局が駅に行くか行かないかについては、一任という話があったが、実証実験でのこの交通の目的の根幹に関わることでかなり大きな話なのであまり一任というのはよろしくないというのが私の意見。

事務局・・・目的をはっきりさせる意味で、このまちなかエリアの役場、診療所、小田原百貨店、情報センターという、街の中心地に人を寄せ町内の活性化をさせたいという意味で、今後、説明していきたいと考えている。真鶴駅については、今回の計画では、ここで書いているが、事務局としては削除させていただきたいと思うが、いかがか。

溝口委員・・・運行事業者としてはそのほうが助かる。町の中の活性化ということを考えれば、真鶴駅を乗降ポイントとすることは町民の希望が一番多いでしょうが、これはまた別の物と考えていただきたいと思う。

岡村会長・・・乗降ポイントについては、もともとの無料のバスだったときのものをそのまま載せているということで、もう増やさなくていいか。

藤田委員に何うが、乗降ポイントは、協議が整うかどうかの重要なポイントってということと認識してよいか。

藤田委員・・・届け出を出していただく際に。

岡村会長・・・追加変更の場合は。

藤田委員・・・またそのときに。

岡村会長・・・本来は会議をきちんと開いて協議をしなければいけないと思うが。

藤田委員・・・そこは、会議体としての皆さまの合意っていう意味ではそうだと思うが、

協議をして、整わなければ支局は受け付けないということではない。

岡村会長・・・乗降ポイントは当面これでいいかということか。

事務局・・・まちなかエリアの乗降ポイントについては、無料の際に、利用の多かった所をポイントとしており、役場、診療所、情報センター、小田原百貨店の4カ所で設定をさせていただいた。

〇〇委員・・・車両について、例えばデマンド交通実証実験車みたいな、例えばプレートをマグネット等で貼る。専用車にしないで、取り換えて運行されるのだと思うが、そのような形なのか。

事務局・・・そうです。

〇〇委員・・・例えば、アルハンブラ前のちょっと手前の所が自分の家だから、そこで降りさせてよと言われたときも、あくまで乗降ポイントで降りていただくということで、徹底でよろしいか。

事務局・・・はい。そうでないと普通のタクシーになってしまう。

この事業始める前には説明会等を開いて、使い方とか利用の仕方について町民の方に説明していくなど、使用方法の周知は徹底したいと考えている。

岡村会長・・・デマンド型乗合タクシーというのは、車両はタクシーなので、町民への周知のときにタクシーという言葉は使うべきか。タクシー車両だし、タクシー事業者がサービスをしていることを周知することは大事だと思うが、タクシーなのかという話は、どうか。実際はタクシーの行灯がある車がやってくる。湯河原も愛称を付けたし、実証実験には間に合わなくてもいいが、本格になったら考えた方が感じた。

総括すると、原案の乗降ポイントから真鶴駅は抜くということ。それからデマンドサービスゾーンについて、ルート上に追加することがあり得るので、その場合は委員のみなさんに事前に知らせるということ。あとは、まちなかゾーン間の移動は不可だということ。それから普通のタクシーではなく乗合いであることなど、利用者への周知は徹底すること。町民に周知をすること。ということがまとめだと思うが、これでよろしいか。

——了承——

関連資料（利用者実態調査、運転免許自主返納者に対する支援制度）事務局説明。

【以上】